□ Woelkerling, W. J.: **The coralline algae: an analysis of the genera and subfamilies of nongeniculate Corallinaceae** i-vii+268pp. British Museum (Natural History), Oxford Univ. Press, London. 1988. リンネの時代以降に無節サンゴモ類の属として記載された数は少なくとも145，種は1600余に上ると言われる。外形が単純でしかも体内に多量の石灰（$CaCO_3$）を沈着することから分類形質の把握は容易でなく，さらに保存標本には断片的なものが多いこともあって，無節サンゴモ類の分類はともすると敬遠されがちである。著者は属の基準種の正基標本を確認して正名と属の定義を明確にすることに努力を払い，10余年の歳月をかけて本書を完成した。著者によると，145属のうち57属は化石属，28属は非合法名，4属は無節のサンゴモ類に所属しない属，13属は異名，9属は所属不明の属で，結局現生属は22であると言う。本書はこの22属の特徴，属名の語源，異名，基準種，原産地，基準標本とその保管場所，及び属の分類上の問題等の記述を中心とし，ほかにサンゴモ目，サンゴモ科及び亜科の分類の大要を述べ，また無節サンゴモ類の標本の採集方法，保存方法及びプレパラートの作成方法等についての解説的な記述をする。なお属の分類には，無性生殖器官の構造と体細胞の配列様式，特に細胞間の連結の様式が第一義の識別形質に採用されている。有節サンゴモ類については先に H. W. Johansen (1981) による Coralline algae, a first synthesis. 239 pp. CRC Press (ca. ¥26.330) があり，今回の本書の出版はサンゴモ類全般の今後の研究に資するところが極めて大きい。　（千原光雄）

□ Ng, E. S. P. (ed.): **Tree flora of Malaya. A manual for foresters, Vol. 4** 549pp. 1989. Longman. Malaysia, Selangor. M. $150. 本書は1965年に開始された Tree flora of Malaya プロジェクトの成果で，25の科を取扱っている。第3巻が出版されたのが1978年で，本巻との間に10年ものブランクがあった。各科とも属，種への検索表があり，各種には原典と Ridley の Flora of Malay Pennindula での学名やマラヤで通用している他の学名が異名として載っている。本巻で扱っている科のうち，大きなものはクスノキ科 (K. M. Kochummen による)，センダン科 (D. J. Mabberley, C. M. Pannell)，アカネ科 (K. M. Wong) で，新学名もいくつか発表されている。たゞアカネ科は他の科とちがい，多くは種ごとの記述がなく，検索表中に原典などが挙げられているに過ぎない。種名の未決定な分類群も多く sp. 1, sp. 2 というようなかたちで記されている。はじめの巻では，T. C. Whitmore のような欧米の研究者による貢献が大きかったが，本巻では Oxford の Mabberley や Pannell, Singapore (当時) の J. F. Maxwell ら少数の研究者以外は，Malaysia の Forest Research Institute のメンバーが執筆している。Malaysia での分類学者をここまで育てたのは本巻の編者でもある Francis Ng の偉大な貢献である。　（大場秀章）